

都市部で高まる災害対策パルクの導入

都市ガスマンションに住民主導で導入

修繕を機に
被災対策
LPG発電機も併設

LPガス業界では、東日本大震災以前から都市ガス供給エリア内である都市部での災害対策パルクの設備機運が高まっていた。

平成22年11月には、東京・荒川区西尾久のマンション「グリーンパーク上中里」の管理組合が、

自治会と自発的に「災害計画の二環として、防災

対策及び震災時における被災対策に取り組み、防災倉庫や防災井戸、災害用仮設トイレなどの防災設備を設置した。同時に、同マンションは都市ガス供給マンションであり、大規模地震の際にガス供給が停止することを懸念し、災害対策用パルクとLPガス非常用発電機の導入、防災倉庫に隣接して建造した調理場、シャワー室へのLPガス供給を実現した。

民生用パルクの災害対策パルクシステム2基、LPガス発電機2基を設置したが、供給元のサイサン(さいたま市、川本武彦社長)には、災害対策用パルクシステムの補助金制度のPRパンフを見た管理組合責任者が、

パルク貯槽メーカーの富士工務に問い合わせ、直接連絡してきたという経緯がある。



災害対策用パルクシステムを導入した、都市ガスマンション「グリーンパーク上中里」



LPガス非常用発電機2基も設置



関東大震災時に甚大な被害が出た荒川周辺エリアとあって、被災・減災対策への関心が高い

完成から半年後、東日本大震災が発生し、強い余震や計画停電、帰宅難民の発生など、震災に対する心配が現実となったが、防災マンションへのリニューアルが奏功、災害時に強いエネルギー、LPガスの再認識ができたとしている。